

## 再び、都市広島の夢

広島地域会のアーカイブは、1987年に始る先達建築家が掲げた理念やその実践に注がれた情熱を継承し、今日の変化し続ける社会状況に即した数々の実績を築いてまいりました。地域づくりの『時間・空間・建築』を座右の銘として、自然への畏敬の念を持つことから「ゲニウス・ロキ」を語り、「ひろしま」を考えると、都市軸の再生、百メートルの平和大通り、イサム・ノグチの平和大橋、「平和公園と丹下健三」の理念の再認識、平和への遺産「原爆ドーム」を残した市民の葛藤、「平和の池・慰霊碑」に祈るひと、人の想いと平和公園、かつての中島地域は世界から訪れる公園は「世界都市広島」の聖地でもある。

真の建築のここを学びによく訪れるところとして、「世界平和記念聖堂」がある、この聖堂の姿に被爆の焼土で練り込みのモルタルレンガを築き、ひっかけ目地で仕上げたこの地の美しい建築だ、被爆の苦しみをのりこえた歳月が、さびを深め独自の空気感を醸成している、「この建物は、十年経ったら見られるようになりますから」と村野藤吾先生は語られている、理想は、月日に磨かれ、本物になる建築である、96建築文化講演会を広報委員会の企画で、弟子の見た巨匠の世界「村野藤吾」の世界を開催している。

戦後近代建築を具体的に手掛けてきた、人として、建築家としての巨匠をみてその個性、設計手法など、平和文化都市広島を誠実にとらえる教訓の数々に学んでいるところである、「中国地方の建築家プロフィール」「宮島学習」「子どもと創るエコシティ広島」「JIA広島大会と広島の建築」「阪神大震災の支援活動」などの機会を得ている。



都心から瀬戸内海を望む

□2011東京大会「3・11からの思考」被災地の映像から「もう1度ここに家を建てたい」の初老女性の笑顔とことばに震災復興の形を見出したいと動機づけをいただいた。

明日で半年、東日本大震災を契機に、日本全国でまちづくりの在り方が問われている、震災、津波、被爆からの復興にむけて、災害に強い街づくりに努めたい。

■3・11の、M8.9震源は日本海溝、雄略半島沖合40km、プレートは東に5.4m、0.9m沈下した、史上最大の地殻変動、津波は20km/hか、速さ・圧力で、海洋構造物防波堤・護岸、巨大船を陸に打ち揚げ、水産施設もとも根こそぎ、生活の場、生きた証を飲み込み。死者は1万5千人、行方不明者9千人にも及ぶ、巨大津波は原発を破壊し、「非電源喪失」したが、釜石港の防波堤は津波の高さを4割低減した上、市街地への到達を6分間遅らせ、住民の避難に貢献した。減殺の機能は果たしている。原発は「海水を注入し即、廃炉にすべきであった」

◇ちかごろ「人びとに覇気がない、どうも日本はおかしいぞ、今は造るべきできない」と言った「災害は忘れたころにやってきた」平安時代にも海岸線から数kmまでの大津波、仙台平野に埋まる土砂が今に伝える教訓もあるが平地へ沿岸へと生活の場をもとめた。

研究者は2年前、原発関係者が集まる席で報告した、関心を持って、イメージを大切に誠実に努めてほしいものだ。人間の能力では制御できない「想定外」の巨大科学なのか

人類の歴史は地殻変動の歴史と言える、その過程で人類が発生し、進化してきた、人災を、無くし、減災し「過ちを繰り返すな」をどう伝えるかが大事だ。

◇夢のある話に変えましょう、震災、あれから結婚したい人、人の絆を命を大切に人、子孫生命保存の法則なのか、故郷を想う心が情勢され喜ばしいことだ、近年、スローライフの思想に目覚め営んでいる方も多く見られる時代、瀬戸内地域は自然災害の少ない風光明媚なところで自然に生きる夢のある。

広島は太田川の流れてによって堆積した下流域に市街地が形成され、都心の中高層建築は渾然と見える、この既存の建築物を生かして、新たな魅力の創出につなげ、都市の再生を懸けてみたい、流れの中流域は地域の力を生かした誇れるまちを自らの手で想像し行動する姿勢が求められる、源流域は空気はおいしい、清流の瀬は美しい「ふるさとの山に向かいて言うことなし故郷の山はありがたきかな」の気概で本来の山里を大切に育みたいものだ、備後の芦田川の流れても中国山地の源流から平野部を形成し独自の市民文化を持ち得ている。

◇「夢と希望とサブマネー」チャーリー・チャップリンのことばをいただき広島の夢を共有しよう。「瀬戸内海沿岸の自治体地方機関で構成する「瀬戸内・海のネットワーク協議会」では、「観光・地域振興と共に、地域の防災力の向上にも取り組んでいる。海の道のルートを非常時の海上輸送として活用できる。

西日本で被害が想定される東南海・南海地震は他人ごとではない、尾道市や三原市、福山市における津波による浸水は、被災地と同じ様な低地は高潮対策が急務だ、広島では観音・江波地域など対策されつつある。又、液状化対策は、これから何をどうなすべきか、プロは自らの責任感で方向性と道筋を図り、今と先の判断を、全体性と現実化を計ることだ。

明確な国家理念の目標と軸を示すときである、世界が注目し流動化している今、日本は試されている、歴史を見通す知力、現実立ち向かう決断の行動力が求められる。

◇いざというとき民を守るは国の責任、「住」の確保、生存権は憲法25条。建築基準法第一条「命と健康、財産の保全、ひいては公共の福祉に資する」とある。建築基準法は1950年に最低を定めた法令だ・行政による行政のための、から地方主権に脱皮したい、旧態依然として制度疲労ものだ、行政任せにするのではなく、住民一人一人が考え、意見し、行動する姿勢が大切だ。

◇『今から始めよう』新しいまちづくりの夢づくりをを、将来世代への付け回しは限界だ。

これからは節電に努め、いかに省エネで生活をするか、自然エネルギーの活用を図る、小水力発電は水路で可能だ、瀬戸内は太陽光で3~7kw/h、小風力発電も、家庭の消費電力は賄える、これからはバイオマスも面白い、地球にやさしいと資源、国際藻学会の渡辺教授は1977年の赤潮の研究から藻類オイルの生成に成功した。温泉地の地熱も、瀬戸内の潮流も立地特性の自然エネルギーである、なんとかCOP3の順守に貢献しよう、知的価値を共有し、ロマンチズムの姿勢と歴史的使命感を持って始めたい。

◇平和な国、アイルランド、ニュージーランドに次ぐ世界3位の日本の平和都市広島を「夢の平和都市広島」に成長させましょう。

広島の建築、そのまちづくりの思考のゆくえは「持続可能社会の都市建築」都市住宅を軸にして自らの手で、誇れる建築、元気にさせる建築、これまでの形式にこだわらない、地域の、ところの、新しい自由空間をつくりたい。

2007年「ハウス・バーン・フリート・戸坂数甲の集合住宅」はひろしま建築文化賞大賞の作品です。

□いま、作品名「再び、ひろしま」のオマージュの公開に向けて働きかけているところである、作者は、建築家・丹下健三の愛弟子である建築家・磯崎新さんのオリジナル作品である、地域会は展示したいと考えているところである。



北側を望む



東方面を望む